

生活習慣病の早期発見・予防を

川口市立医療センター

しゅうとう なる み
消化器内科 周 東 成 美



近年、食べ過ぎ飲み過ぎによる^{すいぞう}膵臓の機能異常がよく認められています。膵臓の検査項目には膵酵素であるアミラーゼ、リパーゼ、トリプシンの3種類があり、膵臓の機能に異常を認めるかたには、同時に肝臓と腎臓の機能障害も多く認められます。早期に膵機能の異常に気付くことで、生活習慣を見直し、改善するきっかけになります。まずは血液検査で膵臓、肝臓、腎臓の状態を知っておくことが重要です。

膵酵素の3種類のいずれか1つにでも異常があるかたは、しばしば肝臓の異常を示す γ GTPが高くなっていることがあります。その原因はアルコール性肝障害か脂肪肝が多く、さらに、3種類のうち2つ以上に異常がある場合には腎機能障害も多く認められます。

また、なぜ異常になったのかを知るためには、痛みのない検査の超音波検査や、CT検査、MRI検査などの画像診断をお勧めします。これらの画像検査は“暗黙の臓器”と表現される膵臓の、癌の早期発見にも繋がります。

画像検査では肝臓の脂肪肝所見や萎縮所見などが認められ、腎臓では腎萎縮や腎硬化の症例や、大動脈を含めて動脈硬化所見も数多く認められます。膵臓では、脂肪置換された脂肪膵、萎縮膵、膵腫大、膵嚢胞などの所見があります。これらのかたがたの中には糖尿病をすでに治療しているかたも多く、糖尿病の予備軍のかたもたくさんいます。

生活習慣病そのものをこれらの指標で早期に知ることができるため、年に2、3回程度の検査をお勧めします。